

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600237		
法人名	株式会社 三協医科器械		
事業所名	あったかいご グループホーム 大堤(第1ユニット)		
所在地	北上市大堤東2丁目1-32		
自己評価作成日	平成28年9月21日	評価結果市町村受理日	平成29年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390600237-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390600237-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団いきいき岩手支援財団
所在地	盛岡市本通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年10月11日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が自分らしく生活出来る様、個々のADLや希望に寄り添い適したケアの実践に努めている。訪問診療、訪問看護、訪問歯科医との連携を活かし、体調不良の早期発見、治療に努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の協力医療機関であるホームケアクリニックえん・県立中部病院と連携した利用者の健康管理に努めている。また、看取り支援もスムーズに実践されている。  
2ユニットでそれぞれに調理が行われており、メニューもそれぞれになっているのも新鮮に思われた。自己評価もそれぞれのユニットで異なり、取り組みの違いや管理者の個々の評価が反映されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	初任者研修時、運営理念を全職員に説明するとともに目のつく場所に掲示し、共有に努めている。	理念は、法人の福祉事業部で作られたものを全事業所で共有している。理念「共に和み、共に生きる」と、他にもさらに三つの目標を掲げ、職員の目につくところに掲示している。理念を掘り下げて実践につなげるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域代表として地区公民館長に参加してもらっている。地区ボランティアの方の訪問等あり。	自治会に加入し、回覧板も閲覧している。利用者が自治会主催の行事等に参加することは出来ないが、近隣住民からの野菜のおすそ分けがある等、日常的な交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流の機会が少ない。施設見学、実習生の受け入れ等を行っていききたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催し、運営状況、事故報告、ヒヤリハット等を報告するとともに利用者、御家族、地域包括、地域からの意見・要望を聴き、運営に生かしている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催している。構成員である家族にも声がけをしているが、低い参加率となっている。災害時の避難訓練に合わせて会議を開催する等、構成員の理解が得られるように努めている。次回は運営推進会議を防災訓練の時に予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点があれば、電話での問い合わせを行ない、必要な際には、市役所へ出向いている。	今年度から、市担当者は運営推進会議に参加していないことから、所長が市に出向いた際に、市担当者との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項説明書に明示するとともに施設内研修においても全職員に説明している。	採用時の研修、職員会議での話し合い、外部研修への参加を通して、身体拘束について理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。普段から、敬語、丁寧語に心がけている。利用者の転倒防止のため居室のベッドの足元にセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	重要事項説明書に明示するとともに施設内研修においても全職員に説明している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 あったかいごグループホーム大堤(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員においては、研修に参加しているが、外部または、内部研修において制度への理解を向上させたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、概ね1時間ほどの時間を頂き同意に努めている。疑問点等については、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは、日頃から話しやすい環境を作っている。御家族とは、面会等の来所時に気軽に話が出来る関係づくりに努めている。	利用者からの意見・要望は、日常的な関わりの中から把握するようにしている。また、家族からの意見・要望は、家族が来訪した際に、気楽に話していただくような雰囲気づくりをしている。意見箱のようなものは設置していない。	利用者や家族の運営に対する意見をくみ取る取り組みとして、アンケートによる満足度調査を行うなどして、家族の意見・要望を引き出す努力や場面を作ることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回職員会議を実施し、意見を聞く機会を設けている。職員希望時には個々に対応している。	ユニットごとに連絡ノートを常備して職員に記録して貰うようにしている。また、職員会議において、職員の意見や提案を聞くようにしている。その中で、勤務時間について提案があり、遅番担当者の勤務時間を変更する等、勤務体制に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を実施し、半年に1回の個人面談を行っている。日常業務以外にも、経験・能力を考慮した上、係・行事企画を行ってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内においては、全職員を対象としリスクマネジメント、コンプライアンス等の研修を行っている。外部研修に関しては、現状人員が不足している為、積極的な参加は見込めない状況にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。県内の同一法人内で「ひやりはっと委員会」を月1回開催、福祉部会を月1回行い情報の共有を図り、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、御本人にお会いし、話を聴く機会を設けるとともに質問等にも答えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時、入居前にも御家族の希望は、何でも話し合いに応じ、自宅訪問や施設見学をいただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者のADLの状態や御家族の介護力の問題など、多角的に考え、適切なサービス利用に繋がるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理のない範囲で日々の家事や装飾等を共同で行っている。食事同メニューと一緒にいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに連絡を取っている。行事等は、御家族に参加、協力もいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の協力をいただき、外泊・外出をしている。個々の都合に合わせ、美容院・通院等継続していただいている。	馴染みの人や場について、本人や家族から把握するようにしている。利用者が希望する墓参りや、床屋・美容院等に行ったり、家族の協力を得ながら、関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や嗜好に配慮した座席の配置をしたり、必要に応じて職員が仲立ちし、いい関係が保てるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、必要に応じ関係機関への情報提供等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前面談や、事前訪問を実施しこれまでの暮らし方を本人・御家族から聴き、職員間で情報を共有しながらケアを行っている。また、こちらでの生活の中でも必要に応じ本人・御家族からも都度お話を伺っている。	面会の際に、家族から聞き取りをしている。普段のコミュニケーション場面において、利用者の意向を把握するようにしているが、困難な場合は、利用者の仕草や表情から、汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までの生活について本人・御家族から話を伺い、職員間で情報を共有しながらケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の動作・言動からその日の状態を見極めながら適したケアを行うよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、本人・御家族の思いや意向を反映し、変更箇所については、随時説明を行っている。定期的もしくは、必要時カンファレンスを行い、サービス内容の見直し・変更を行っている。	利用者や家族には、日頃からの関わりの中で、思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。居室担当制(2名)をとっており、アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。遠方に居る家族の場合、電話等により意向を確認することもあるが、今のところ、支障なく推移している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録や業務日誌に記録し情報の共有を行っている。その他、申し送りノートを活用しサービス変更をスムーズに行っている。月2回の会議時においてサービスの見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月1回近況報告を行っている。その時々生まれるニーズに関しては、面会時にお話しし、急を要する場合は、電話にて即対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 あったかいごグループホーム大堤(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元駐在所・消防署と関係を密にし、安全な暮らしを提供できるようにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良時には、直接主治医に連絡をしたり、訪問看護を仲介して対応できている。また、早期発見・報告するよう努めている。	本人及び家族と話し合い、希望するかかりつけ医となっている。入居前からの医療機関を継続している利用者が3分の1、入居後に事業所の協力医療機関に変更している利用者は、3分の2程度となっている状況である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	金曜日が訪問看護の来所日となっている。第2ユニットが火曜日の為、施設としては、週2回訪問してもらい、日頃の状態を診てもらい、相談等を行っている。また、必要に応じ、主治医への連絡・調整を行っていただいている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、御家族・医療機関と連絡をとり、早期の退院が出来るよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を説明し、同意を得ている。必要時には、主治医・訪問看護師・御家族・事業所が話し合うことを確認している。	重度化に関する指針により、本人と家族に説明し、入居時に同意書をいただいている。看取りは、今まで3件の実績があり、訪問診療の看護師を講師として職員の勉強会を実施している。事業所の医療体制は構築されており、24時間対応のバックアップがある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「急変・緊急マニュアル」を作成し、全職員に説明・配布している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6カ月ごとに消防訓練を実施している。今年度は、運営推進会議日に合わせ実施し、御家族にも参加していただいている。地震時の対応については、連絡・応援系統について職員間で確認している。	運営推進会議に合わせて、利用者・家族・会議参加者と共に消防訓練を実施している。災害時の対応については、職員間で確認している。1日分の食料を備蓄している	災害時に必要な備品の見直しや、避難方法等検討し、実践的な避難訓練が行われるよう期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	県内の同事業で2か月に1回、3標語を決め実践し、2か月後にモニタリングも行っている。事業所内としては、入居者・御家族含め外部の方・職員間においても敬語・丁寧語の使用を徹底している。	居室で、オムツ交換等を行う際には、入口にスクリーンを置くなどして利用者の立場に立った対応をしている。敬語、丁寧語の使用を徹底し、利用者一人ひとりの誇りを尊重した支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出・散歩・買い物は、行きたい方の希望を受け、機会を設けている。入浴については、時間帯等希望に沿って行っている。食事については、			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴については、大まかな時間を設定しているが、その他は、希望により都度柔軟な対応がとれるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と一緒に衣類を選択したり、整容の見守り、必要に応じた介助を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望により、旬なものや食べたい物がある際には、随時メニュー変更を行っている。出来る限り、食事準備や片づけは、職員と共に行っている。昼・夕食は職員も同じものを頂き、会話しながら食事を行っている。	食事の献立作成や調理は、職員が行っている。事業所の畑から採れたものや、近所の住民から差し入れされた野菜を取り入れ、季節感のある食事を作っている。職員と一緒に買い出しする際に、職員の希望の献立に変更することもあり、臨機応変に対応している。職員と利用者が、同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るように、雰囲気作りも大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量に気を付け記録すると共に必要な方には、内容まで記入している。塩分や糖分控えめの指示がある方についても、都度対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声がけ、必要に応じた介助を行っている。義歯を使用している方について夜間洗浄剤を使用し消毒している。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 あったかいごグループホーム大堤(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。使用物品についても随時変更検討している。	屋間は、全員がトイレを利用している。水分摂取・排泄チェック表を活用してトイレ誘導をする等、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	随時、水分を提供し記録を行い、摂取量の把握に努めている。午前中には牛乳、昼食には、ヨーグルトを提供している。必要な方には、主治医に相談の上、下剤の変更・調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週間予定は設定しているが、本人の体調や意思により随時変更調整を図っている。	午前と午後に、利用者の希望に沿って実施している。週3回程度の入浴ができるように支援しているが、毎日利用する利用者もいる。異性の職員の介助もあるが、利用者の心情を察した対応をしている。菖蒲湯を実施する等、季節感のある入浴場面をつくり、楽しい入浴ができるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体を動かし、生活のリズムを整え安眠に繋がるよう取り組んでいる。ホールにはソファを設置し思い思い過せるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容は、お薬情報提供書にて効果・副作用等を確認している。お薬は、施設管理とし都度入居者に服用等していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除や洗濯作業、食器拭き等可能な範囲でお手伝いいただいている。また、レク活動や園芸作業を行い、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って散歩や買い物、ドライブ等外出の機会を設けている。	食材の買い出し、毎日の散歩、故郷訪問等、利用者一人ひとりの希望に添えるように支援している。季節ごとのドライブも行っている。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 あったかいごグループホーム大堤(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則お金の持ち込みはご遠慮していただいている。希望のあるかたについては、立替払いで対応し、可能な際には利用者本人にもお店まで同行していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時には、施設の電話を使用し、ご家族と会話していただいている。また、手紙等も本人にお渡しし読んでいただいている。。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レク活動を通し、季節の装飾等を行っている。ホール内のソファは、外の景色を眺めることが出来、人気がある。	ホールは、採光も良く、利用者一人でもくつろげるソファが置かれており、利用者が、思い思い自由に過ごせるようにしている。廊下には、行事等の写真を掲示して、生活感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファとテーブル席どちらで過ごしてもいいように配置している。また、ソファやテーブル席の間隔を空け小グループでも会話や作業が出来るよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具・布団の持込が出来るようにしている。また、ご家族や入居者同士での写真を掲示し、心地よい環境づくりに勤めている。	居室は、ベッド・クーラー・パネルヒーター・クローゼット・洗面台を備えている。整理ダンス、家族写真、テレビ、作品、CD・DVD等が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、モータベッドを全室完備し個々の身体状況に合わせた介護が出来るようにしている。各所に手すりを整備し安全に移動が出来るようにしている。また、各階に行き来がしやすいようホームエレベーターを1基整備している。		